

地域に溶け込む。



▲先頭で山車を曳くギャビンさん

地域活動の担い手として
 久喜の夏の風物詩、久喜提燈祭り。各町内の山車が威勢のいい掛け声とともに街中を駆け回る中、新一志ん(一)の山車を曳く屈強な男たちの中に、一際逞しい体つきをした外国人の方がいました。彼の名前は、ギャビン・マティソン。イギリス出身のギャビンさんは、7年前から新一祭典保存会の一員として祭りに参加しています。「町内への引越しを機に地域の方から声をかけていただき、夫婦で祭典保存会に入りました。もともとお祭りは大好きなので、伝統の祭りに参加できることを光栄に思います」久喜市出身の女性と結婚したギャビンさんは8歳から空手を習い、日本文化に親しみがあつたといいます。どのような想いで祭りに参加しているのでしょうか。「祭りの歴史を理解し、地域への敬

“自分は久喜の住民だ！”と改めて認識

「初めて参加したときから歓迎していただき、部外者と感じたことは一度もありません。みんな優しく思いやりがあり、誠実。山車を動かすのは命がけですから、お互いを信頼し、守り合いながら一体となって取り組んでいます」コミュニティを大切にすると、コミュニケーションが大切になるといいます。久喜市で生まれ育ったギャビンさんは、地域の人に自分から挨拶し、



新一祭典保存会 副若頭
木村 正吾さん

ギャビンは温かくて熱い男です！祭りの準備段階から仕事の合間を縫って参加してくれるし、曳き手としても大きな力を発揮しています。自ら周りに声をかけ、周りも彼に寄っていくようなムードメーカー。祭りの担い手不足もある中で、彼は地域に溶け込む力も高く、町内に欠かせない存在になっています。

意と尊敬の念を大切にしながら、地域・家族・久喜市・イギリスを代表しているという責任感・使命感を持って参加しています。自分は久喜の住民だ！と改めて認識しますし、久喜の皆さんを元気づけられる貴重な機会だと感じています」祭典保存会の仲間からの信頼も厚いギャビンさん。ともに祭りを盛り上げる仲間たちのことを兄弟のように思っていると話します。「初めて参加したときから歓迎していただき、部外者と感じたことは一度もありません。みんな優しく思いやりがあり、誠実。山車を動かすのは命がけですから、お互いを信頼し、守り合いながら一体となって取り組んでいます」コミュニティを大切にすると、コミュニケーションが大切になるといいます。久喜市で生まれ育ったギャビンさんは、地域の人に自分から挨拶し、

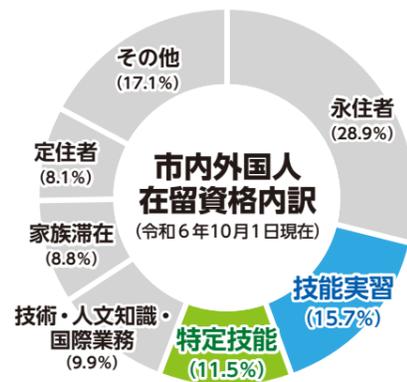


普段は会社経営、映像クリエイター、シネマトグラファー、ゲームプロデューサーなど、マルチに活躍しています。



市民体育祭のメインイベントとなる綱引きでは、地元チームを28年ぶりの決勝に導くなど、獅子奮迅の活躍を見せました。

働き、産業を支える。



貴重な労働力として
 近年、国内の慢性的な労働力不足を背景に、日本の技術や知識を外国人実習生に母国へ持ち帰ってもらうことを目的とした従来の技能実習制度(※)のほか、平成31年4月からは、特に人手不足が深刻な産業分野において人材確保を図るための特定技能制度が開始され、外国人労働者の受け入れがさらに拡大しています。制度の目的は異なるものの、これらの制度はいずれも外国人が日本で働く環境を整備したもので、労働力確保の一端を担っています。久喜市においても多くの外国人が製造業の現場などを中心に欠かせない存在となっており、本市の産業を支えています。

(株)デリカシェフ セブン-イレブン向けの惣菜などを製造(本社:久喜市)。久喜工場では、技能実習生約60人、特定技能外国人約150人が在籍。(ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーなど)



海外人材支援課
 すがわら ありさ
菅原 有紗さん

少子高齢化に伴う若者の採用難などの問題解決も含め、アジア諸国

からの若い方々を受け入れ商品を作っています。日本のルールや文化にも順応して頑張っており、働きを評価された特定技能外国人は現場のリーダーとなって活躍しています。海外人材支援課は、生活面でトラブルになりやすいごみ出しルールの教育や、各種手続きのサポート、また学習面で日本語学習のサポートや技能試験の勉強会を行うなど、外国人の方が日本で活躍していただけるように教育や支援をしています。



特定技能外国人の皆さん

左からクスマさん(インドネシア) アウンさん(ミャンマー) インタンさん(インドネシア)



▲バドミントンで交流を深める日本社員と技能実習生

クスマさん こどもの頃から日本のアニメを見て日本語を勉強していたので、日本にきました。自転車で久喜市内を回るのが好きです。いつか家族で日本に住みたいです。

アウンさん 日本でもっと働きたいので、特定技能2号(※)を目指して勉強しています。休みの日は商業施設に行つてUFOキャッチャーしたり、友達と遊んでいます。

インタンさん 仕事は先輩たちが優しく教えてくれるので順調です。久喜市は東京へのアクセスも良いし、静かで快適です。目標は富士山に登ること、日本人と結婚すること！

※熟練した技術が求められ、在留期間に制限がない。取材した3人とも2号を目指しているとのこと。

(株)なとり 「チーズ鱈」などおつまみ各種を製造・販売。埼玉工場・埼玉第二工場(久喜市内)で働く外国人38人のうち、技能実習生が14人、特定技能外国人が1人。(ベトナム、ペルー、フィリピン、中国、韓国など)



埼玉第二工場 総務部
 せきね まさき
関根 雅貴さん

外国人の雇用は、当社で長年培われた技術・知識を開発途上地域等へ供与し、その国の発展に寄与できないかと考えたことがきっかけです。加えて当時は、人口減少社会に突入し、日本全体で人手不足が深刻になりつつあり、当社も例外ではありませんでした。皆さん日本語や仕事の習得スピードが早く、向上心を持って業務に取り組んでくれているので、安定生産に大きく貢献してくれています。技能実習生用の寮を準備し、生活で困ったことがあればすぐに連絡してもらおうなど、生活面を支援しています。



技能実習生
 ファム・ヴィさん (ベトナム)

働きながら日本語を勉強するために来日しました。久喜市はいろいろなものがあって便利で良いです。日本語の試験を受けて、より高いレベルの日本語能力を試すことが目標です。



◀市内の埼玉工場・埼玉第二工場は、同社を代表するサラミ類や「チーズ鱈」を製造する主力工場。多くの技能実習生が製造工程に携わり、工場の生産を支えています。

久喜市と世界をつなぐ ~異文化交流コラム②

国際交流を経験して

現在大学で国際経営学を学ぶ **山賀春奈さん**。久喜市・ローズバーグ協会の国際交流事業で、令和2年にアメリカのローズバーグ市を訪問し、昨年の夏に市内自宅へホームステイを受け入れました。国際交流は彼女にとってどのような経験だったのでしょうか。



海外の方と友達になるには英語が話せないか...と思っていましたが、話せるか話せないかではなく、話そうとする気持ちがあれば仲良くなれるのだと、考え方が変わりました。また、「国が違うから」「あの国はこうだ」とステレオタイプ的に理解を諦めるのではなく、一人ひとりを個人として理解してあげたいと思っています。国際交流は、久喜市のことや日本の伝統・習慣を改めて勉強し直す良い機会にもなりました。



久喜市のお祭りでみんなで浴衣を着用し、記念に撮影。日本文化を満喫してもらいました。